



私たちが住む名古屋では、少子高齢化が進みつつある中で、来るべく南海トラフの巨大地震に対して安全安心なまちを実現するために、都市計画の観点から駅そばまちづくりや震災前復興計画などの検討が進められています。このような検討を進めていく上でも、例えば、関東地震と後藤新平による東京の復興都市計画、この東海地域では、濃尾地震の教訓、徳川家康による清洲越、広小路や四間道、石川栄耀らによる戦災復興と名古屋のまちづくりの歴史などは重要な参考資料となることが想像に難くありません。

そこで、今回の企画「まちとすまいの集い」では、関東地震、濃尾地震を一番よくご存知のお二人の専門家と防災分野の若手オピニオンリーダーの三名に、これからの安全安心なまちづくりの在り方について、歴史を振り返りながら熱く語っていただきます。各講師のご専門は地震学、建築史、都市防災（経営工学）と三者三様です。奮ってご参加ください。

第14回まちとすまいの集い

歴史に学ぶ安全安心なまちづくり

2012年 12月8日(土)
13:20~16:30


名古屋大学
環境総合館 1階
レクチャーホール

名古屋市営地下鉄名城線「名古屋大学駅」2番出口より徒歩約2分

参加費 無料（定員100名）

主催 名古屋大学大学院環境学研究科 建築学教室

後援 (社)日本建築学会 東海支部
(社)日本建築家協会 東海支部
(公社)愛知建築士会
(公財)名古屋まちづくり公社
(公社)空気調和・衛生工学会 中部支部
(社)建築設備技術者協会 中部支部
(社)日本建築構造技術者協会 中部支部

なごや環境大学 



【開催概要】

日時 2012年12月8日(土) 13:20~16:30
場所 名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール
参加費 無料(定員100名)

【プログラム】

13:20 主催者挨拶(建築学教室主任 勅使川原正臣)
13:30 講演① 武村 雅之
「関東大震災から見える江戸・東京の街の変化」
14:20 講演② 西澤 泰彦
「災害の教訓と名古屋のまちづくり」
15:10 休憩
15:20 講演③ 廣井 悠
「まちとすまいとにんげん」
16:10 全体の質疑応答
16:30 閉会挨拶

【会場案内】

名古屋大学
環境総合館

名古屋市営地下鉄名城線
名古屋大学駅2番出口より
徒歩約2分

●お願い
車でキャンパス内に入る
ことはできません。
公共交通機関をご利用
ください。



【お申し込み方法】

必要事項(お名前、ご所属、ご住所、TEL/FAX/E-mail)を記入の上、下記までE-mail、FAX、または郵送にてお申し込み下さい。12月5日(水)締切とさせていただきます。

【お申込み・お問い合わせ先】

名古屋大学建築学教室
まちとすまいの集い事務局(担当:田村、穂積)

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 C2-4
TEL : 052-789-5233
FAX : 052-789-3773
E-mail : machi@nuac.nagoya-u.ac.jp

<http://www.nuac.nagoya-u.ac.jp/topics/machi/machi.html>

【講演概要】



武村 雅之(たけむらまさゆき)
専門分野:地震学

「関東大震災から見える江戸・東京の街の変化」

東京の本格的な街づくりは徳川家康の江戸入城にはじまる。大正12年の関東大震災の被害は、忘れ去られていた江戸建設の様子を、地盤の違いとして浮き彫りにした。神田川の流路変更、日比谷入江の埋め立て、その後の墨東地区への街の拡大などの痕跡が、地震によってまるで水字のように現れた。また一方で関東大震災は、帝都復興事業によって近代都市東京の出発点となった。世界的にも類をみない土地区画整理による街区の変容だけでなく、現代につながる人や文化の大きな変化も伴った。その面影は今でも都内各所に残っている。400年にも及ぶ江戸・東京の街の変遷を、関東大震災を通じて概観する。



西澤 泰彦(にしざわやすひこ)
専門分野:建築史

「災害の教訓と名古屋のまちづくり-水害・火災・震災・戦災を乗り越えて-」



廣井 悠(ひろいゆう)
専門分野:都市防災、経営工学

「まちとすまいとにんげん」

2011年3月11日に発生した東日本大震災は東北地方を中心に多大な被害をもたらしましたが、関東においても帰宅困難や電力の供給不足による計画停電など様々な問題が顕在化した広域災害でした。特に東京都では宮城県、岩手県に次ぐ地震出火を数えるなど、大都市の災害